
メ ス ノート

偽ニカラグア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メスノート

【Nコード】

N0025P

【作者名】

偽二カラグア

【あらすじ】

にてるよねタイトルと設定

(前書き)

これはきつと同人誌です

歴史上、王とよばれたモノタチは古来より。

たくさんの女性をものにすることができた。

ハーレムⅡ一夫多妻。

二股三股十四股である。

実は一人の男がそんなに女をとれるのには理由があった。

それもそのはずだ。

そんなに女がたくさん一人の男に集まるはずがない。

これには歴史上秘密があったからだ。

「メスノート」これは天下を統一したり国をとっついたりすると手に入るというノートだ。
しかしこのノートがどのような経緯で手に入るのかは一切不明である。

千葉県 野田市、中学校。

「この、ナス野郎！」「死ねやこらあつ」

「べげらっ、ぶべ」

トイレでヤンキー風の男子に男子生徒殴られるヨシオ。

「や、やめてよ」

「うっせ」

「すねっ」

散々ボコられたあとヨシオはちまみれで立ち上がった、チビでデブで眼鏡でワキガ。これはイジメられる。しかもドモるし、アイドルオタだ。

血をぬぐい。

「またかよ」とつぶやき下校するヨシオ。

帰り道。

松屋で大盛りをやけぐいし、キレた口の中にしみ、泣きじゃくる。

そうしながらいつものようにアイドルのカードをながめているときだった。

「それ、人気アイドルユニット。タラバガニ４８のベギラゴンさんえだろ？」

突然の話かけに思わずキョドる

「え、あ、あ、はい」

みるとそこには何とも美人の女がたっている。
カノジョはいった。

「おまえすげえキモいな！ありえねえよ」

突然美人になじられ、意気消沈のヨシオ。

店からでてとぼとぼあるいていると

同じようにトボトボ歩く初老のサラリーマンがあらわれた。

公園のブランコでキーキーこいでいると話かけられた。

「イジメかい？」

「え、あ、…」

「いいんだよ、傷をみればわかるさ、つらいだろう？おじさんだよ」

「ど、どうかしたんですか」

「おじさんね。クビになったんだ」

「…」

「死のうかなあ。」

「死ぬんですか？」

「いやあ、もう家族にもあわせる顔がなくて」

「シンじゃいけないですよ」

立ち上がり、ヨシオの前にくるサラリーマン。

殴られるヨシオ。

「ぶっ、」

「おまえに何がわかる!!」

さっていくサラリーマン。

ひどすぎる。

サラリーマンの忘れ物だろうか、ノートがおちている。

「？、め、メスノート？なんだあ、こんなバカなものもちある
いたのか、だからクビになるん
だ。」

なんだこれ。ツカイカタ。これにものにした女性をかくとものに
できます。

自宅。ノートをみていて、バカらしくおもつ。

アイドルをものにできたらなあ。とおもつヨシオ。

健全な中学生。それは普通の妄想だ。

ふざけ半分でタラバガニ48のベギラゴンさなえとかいてみた。

何もおこらない。

続けてクラスで人気の中川香織ちゃんをかいた。何もおきない。

あたりまえだ。

晩ご飯。

いつものように兄や妹にバカにされながらのしよくたく。

テレビをみているとベギラゴンさなえがでている。

かわいい。

顔もほころぶ。

妹「や、だあ、ヨシオきもい」

「う、うるさいな」

兄「おまえアイドルなんかやめとけや、高嶺の花だぜ。勉強しろ」

なじられてもみていると。客に向かい手をふるベギラゴンさなえ。

そのときだった。

客の一人が舞台にあがりさなえめがけダッシュした。

そして突然投げ付けた大量のメス。

さなえはちまみれで全身メスだらけ

「ぎゃあああああ
」

客はざわめき。

ヨシオも絶叫する。

「うわあああああ
なああえっ！
」

投げ付けた犯人の顔がうつる。

なんとヨシオにうりふたつだ。

次の日。

犯人は捕まらず。警察がきた。しかしアリバイもあり。

ヨシオはなんとか無実になったが。そっくりの犯人とうりふたつの為。

毎日毎日、警察やマスコミが押し掛け。
連日連夜、学校にもいけずじまいだ。

疑いがはれた一週間後。ヨシオはふと、あのバカバカしいノートをみた。

「ま、まさかなあ」

行きたくない学校に。久しぶりにむかうヨシオ。

さなえは意識不明の重体らしい。

ファンとしては心が痛む。ネットでは自分はひどいいわれようた。

学校。

教室をあけると、みんなの眼がヨシオにとまる。

ああ、またイジメか、ひどくなるんだろうな。

とおもったそのときである

クラスのみんな

「よ、ヨシオ！おまえテレビ超でてんじゃん、すげえ」

「いいなあテレビ」

「ヨシオうらやましいー」

予想外の展開だ。

テレビのせいでクラスの人気ものになっている。

あつというまにかつきあげられたヨシオ。
放課後帰ろうとするとクラスで人気の中川香織ちゃんが話かけてきた。

香織「あ、あのヨシオくん」

話かけられたヨシオ「え、あ、なに」「あのね、」

突然投げ付けられるメス、黒板にささる。

「っいつ!？」

「しめんなさい。」

香織の足元におちるヨシオの顔の形のマスク。

「!?!?」

「さなえをやったのは私なの」

「え、ええええ!?!?」

「だって、あいつ、むかつくんだもん」

「な、中川さん?!」

「だって、ヨシオ君、いつもさなえのカードみてるんだもん。あたしのほう全然みてくれない」

「え、それって?どういう意味?」

突然香織にキスされるヨシオ。

「え!？」

顔を真っ赤にして走りさる香織。

たちつくすヨシオ

ヨシオはいえにかえってうかれていた。

クラスでは人気ものになり。

あげく香織ちゃんにキスされたからである。

うかれてニヤけていると。

メスノートが目についた。
ページをめくると。

なぜか最初にかいたさなえの名がない。

「?!」

どういふことだ。

いつたい!?

香織の名は刻まれている。

さなえの名は消えている。

かいたはずなのに。

ツカイカタの下にこんなことがかかれている。

「、、名字と名前をかけ。間違った名はそのかいたものに災いがある」

ま、まさか、芸名でかいたがためにサナエが！？

驚愕の事実と、至高の幸せをしまったヨシオ。

しかし、サナエを重体においこんだことに対し、悩まされ、責任を
かんじていた。

だが、それと同時に。芸能人でも本名をかけばものにできると考え
ていたのである。

ヨシオはノートをもちあるき、いつでもかけるようにしたのだ。

たまらなくなったヨシオはとうとう、かわいい女をさがすことにし
た。

だが出会いがしらに何者かにぶつかる

そこにとおりかかったサラリーマン。

ノートの落とし主だ。

どうやら、ヨシオを探していたらしい

「あ、おい！おまえ！おまえだな！ノートをつかったのは！かえせ
！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0025p/>

メ ス ノート

2010年11月19日07時13分発行